

茶病虫害防除情報

【第 10 号】

令和元年 7 月 16 日

鹿児島県経済連・肥料農薬課

三・四番茶摘採後および更新園の病虫害防除対策

7月初旬は大雨が続きましたが、九州南部も梅雨明けが近いと思われます。これからは連日厳しい暑さが続きますが、三番茶の生産は早場産地が最盛期に入り、中間・遅場産地へと進んでいくと思われます。これからは、病虫害の活動は最も盛んな時期になりますので発生状況に注意しましょう。三番茶を摘採した後や更新園で発生する病虫害には**輪斑病・炭疽病・新梢枯死症・チャノミドリヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマ・ハマキムシ類・カンザワハダニ・ヨモギエダシヤク**などがあります。この時期の茶園の防除は、来年の一番茶の基になる秋芽の充実や樹勢維持のために大切です。

☆ 防除の考え方

「やぶきた」園の輪斑病防除は摘採直後に行います。チャノミドリヒメヨコバイ・チャノキイロアザミウマは梅雨明け後増加しますので、摘採後から秋芽萌芽前に防除し、秋芽に対する加害を未然に予防します。ヨモギエダシヤクは発生状況を観察し、多い場合は出来るだけ虫が小さい若齢幼虫期に防除します。ハマキムシ類はハマキ天敵、ハマキコン-Nなどによる防除を実施していない園では発生に注意し、同時防除します。

今年も中切り・深刈りなど更新園が多いですが、更新後の樹勢回復のため再生芽の萌芽・生育初期のチャノミドリヒメヨコバイ、チャノキイロアザミウマ防除および「やぶきた」園では生育期の新梢枯死症、炭疽病、再生芽整枝後の輪斑病防除は的確に行います。

輪斑病、チャノミドリヒメヨコバイ、ハマキムシ類などの防除薬剤の一部には耐性菌発生や薬剤感受性低下がみられますので薬剤選択にも留意してください。

☆ 輪斑病・新梢枯死症・・・やや少

今年の発生は、二番茶摘採後まではやや少発生の状況でした。梅雨の後半は降雨が多くなり、梅雨明けも遅れていますので、三番茶摘採は降雨日になる恐れがありますので、発生は多くなると思われます。本病は主に高温の雨天時や葉が濡れている状態で摘採や整枝を行うと、その切り口から感染し、発病しますが、降雨がなくても摘採・整枝時の傷の汁液でも感染しますので、伝染源病葉の多い園などは注意が必要です。このため薬剤防除は摘採・整枝後できるだけ早く行うことがポイントです。薬剤によって摘採直後散布で有効なもの、3日後までの散布で有効なものがありますので選択して使用します。摘採後すぐに防除が出来ない場合は、摘採1週間後頃に1cm位整枝して直ちに防除します。また、台風の強風雨による傷からも感染しますので、防除可能園では台風通過後早めに薬剤散布します。今年も更新園が多いですが、「やぶきた」園は更新後の再生芽生育期（新梢枯死症炭疽病）と再生芽整枝直後（輪斑病）に防除します。

☆ **チャノミドリヒメヨコバイ**・・・やや多 **チャノキイロアザミウマ**・・・少

両害虫とも今年は梅雨期の降雨が少ない状況でしたので発生がやや多い状態で経過しました。梅雨が明けて、乾燥した天気が続くと発生はさらに多くなります。増殖が早く、秋芽の生育・充実が著しく阻害されます。発生が多い傾向の園では秋芽の萌芽前に補完防除して密度低下を図ります。残効の長い薬剤の使用が望ましいです。

中切り、深刈りなどの更新園は再生芽は集中的に被害を受け、樹勢回復が著しく遅れるので、特に注意します。

☆ **コカクモンハマキ** **チャハマキ** **ヨモギエダシヤク**・・・並

最近発生が多くなり、毎年この時期から被害が増加します。発生がダラダラと不揃いになります。いずれも若齢幼虫期や巻葉初期に防除することがポイントです。

表 三・四番茶摘採後および更新園の病虫害薬剤防除法

対象病虫害	防除時期	使用薬剤・使用濃度	使用基準
輪斑病 (摘採・整枝直後) (更新園再生芽整枝後) (台風後緊急防除)	摘採・台風後 (3日後迄)	カスミンボルト [®] 1000倍	30日前 1回
	(3日後迄)	アミスター 20フロアブル 2000倍	14日前 3回
	(3日後迄)	テップロスフロアブル 1000~2000倍	14日前 2回
	(3日後迄)	ニマイ [®] 水和剤 1000倍	14日前 1回
新梢枯死症・炭疽病 (更新園再生芽生育期)	更新園再生芽生育期 (1~3葉期)	ダコニール 1000 700~1000倍	10日前 1回
		フロンサイト SC 2000倍	14日前 1回
		アミスター 20フロアブル 2000倍	14日前 3回
		ナリア WDG 2000倍	7日前 2回
黒葉腐病	摘採後	ダコニール 1000 700倍	10日前 1回
チャノミドリヒメヨコバイ チャノキイロアザミウマ	摘採後~秋芽萌芽前	コルト顆粒水和剤 2000~3000倍	7日前 2回
	更新園再生芽生育期	ハチハチ乳剤 1000~1500倍	14日前 1回
マダラカサハラハムシ	秋芽萌芽前	コテツフロアブル 2000倍	7日前 2回
ヨモギエダシヤク コカクモンハマキ・チャハマキ	摘採後(若齢幼虫期)	ファルコンフロアブル 4000~8000倍	7日前 2回
		フェニックスフロアブル 2000倍	7日前 1回
		スピノエースフロアブル 2000~4000倍	7日前 2回
		ディアナ SC 2500~5000倍	前日 1回
		アフアム乳剤 1000~2000倍	7日前 1回
コカクモンハマキ カンサワハダニ チャノキイロアザミウマ	若齢幼虫期 発生初期	アグリメック 1000倍	7日前 1回

☆注意 ① 四番茶摘採定園では三番茶摘採後にはカスミンボルト[®]、コテツフロアブルは使用しない。

② ストロビリン系、ネオニコチノイド系、IGR系(脱皮阻害)、IGR系(脱皮促進)、ジアミド系薬剤の使用は耐性菌・薬剤感受性低下回避のため年1回の使用が望ましい。